島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）第26巻　31頁～37頁　平成4年12月

両親像について

猪野郁子*・田中由紀子**

Ikuko INO and Yukiko TANAKA

The Children's Image of Parents

1. はじめに

総務庁統計局の「労働力調査」によると，1980年以降女子雇用者に占める有配偶者の割合は6割近くにも昇っている[1]。つまり共働き家庭の増加である。

この共働きの増加によって，男女の性役割に変化をもたらしたであろうか。

1986年男女雇用機会均等法施行後，労働基準法の母性保護規定の緩和その他労働条件の変化は，働く女性の労働条件を一層厳しくしている。子どもを持つ有配偶女性は自分の睡眠時間や自由時間を減少したばかりか家庭生活において家族に負担をかけていると認識している[2]。また，総理府の「女性に関する意識調査」によると，女性が職業をもつことによる障害として「家事が十分にできない」「育児や子どもの教育が十分にできない」がともに6割もあげられている[3]。

この二つの調査は，女性が厳しい労働条件の中で，男性と互角に働くには家事と育児＝家庭責任を両性で負担するべきだと思いながらも，なお家庭生活のかなりの部分を女性がしなければならない（するものだ）という前提で答えているということである。勿論，働きに出る時に夫から「家事をおろそかにしない」「子どもの教育やしつけをおろそかにしない」と約束させられて[4]いるということも忘れてはいけない。

固定的な，伝統的な性別役割分業観はこのように依然として強く残っていることを明確にしている。

つまり，女性の職場進出が進んでも，あるいは，子育てしながら働き続ける女性が増えても，家事・育児の実際と責任は相変わらず女性に押しつけられており，またそのことを女性はある程度不満に思いながらも受け入れているといえる。

しかし，妻（母）の職場進出は，父親と母親の役割（親役割）を曖昧にしてきていると言われている。つまり，「心理学的両性性」を実行しているのではないかというのである。つまり，同じ人がある場面で道具的な行動をとり，他の場面で表出的な行動もとるというように[5]。また，このように，父親の役割，母親の役割が曖昧になったことが，子どもの社会化に影響を及ぼし，現在の子どもの問題行動の出現にも関わっているのだという[6]。

確かに，最近の父親は，権威がなくなったとか，低下したとか言われてはいるが，それは，父親の役割が母親役割に近づいたというよりも，父親役割そのものを発揮していないからではなかろうか。「心理学的両性性」を発揮しているのは，母親だけであって，父親は，子育てにおいては（いや夫としても）なんら役割を果たしていないのではなかろうか。

子どもの社会化を図るためには，父親・母親それぞれがそれぞれの役割を果たすことが必要であろう。しかし，性別役割分業時代の父親・母親役割であらねばならないことはないであろう。

では，家事・育児を男女共同の仕事とする社会にあって，子どもの社会化を促進する父親役割・母親役割とはどんな役割なのであろうか。父親として，母親として最低限子どもに果たさねばならない役割とはどんなことなのであろうか。

このことを追究していく手がかりを得る一つとして，まず，子ども達が父親・母親にどのようなイメージを持っているのかを見たのでここに報告する。

2. 対象と調査方法

小学校5，6年生男女311名を対象とした。思春期の両

＊ 島根大学教育学部家政研究室
＊＊ 温泉津町立温泉津小学校

親批判がまだ出ない，それでいて両親の役割を捉えることのできる年齢としてこの学年を選んだ。対象とした小学校は，県庁所在地の新興住宅地・商業地・農地等を含んだ地域に存在する。

調査は，質問紙によってなされた。学級活動及び家庭科の時間を使って担任により実施された。

質問項目は，家族構成・母親の職業の有無・両親の年齢を求めるもの，実際に行われている役割を見る項目，両親それぞれのイメージを求める項目，両親に望むことを文章完成法で求める項目からなっている。

ここでは，役割とイメージについて報告する。

調査は，1991年９月に実施。回収率は，97％であった。

3．結果及び考察

1）対象者の概要

対象となった５，６年生の男女比・両親の年齢・家族形態・母親の職業の有無について，まとめたものが表１である。男女生徒はほぼ半数，父親は40代が70％近く，母親は，30代が55％，40代が44％。家族形態は，核家族が62％と大半を占め，片親家庭特に母子家庭が５％存在する。調査時点では父子家庭はいなかった。母親が職業についている家庭は，62％と高い割合になっている。ここには，パート・自営業・農業も含んでいることも関係しているが，やはり，現在の風潮が表れているとみてよいであろう。

つまり，日本の平均的な家庭の子ども達が対象者であるといえる。

2）子どもの見る両親の役割

家庭で行われているいくつかの仕事を誰がしていると思っているか求めた。それを男女別にまとめたものが表２である。男女児とも，父親は家族の中心であることと家事や看病は母親の仕事と明確に位置づけていることである。一緒に遊んだりスポーツをするのは，母親より父親であるが，しつけや悩みの相談・なぐさめ役などは，父親より母親の仕事としている。父親の出番は少ない。

男女で違いがみられたのは，「なぐさめる」「悩みの相談にのる」において，女子の方が有意に母親をあげていることである。特に，「なぐさめてくれる」では，男子は「どちらでもない」と答えている割合が高いことが注目される。

女子は男子に比べて，母親をあげる比率が高く，相談や頼りにしている反面しつけなども口やかましいとしている。男子は，異性としての母親からの親離れを始めているのであろうか。それとも，男子より発達の早い女子に対して同性としての母親の干渉が大きいのであろうか。

家族構成別・母親の職業有無別・父親の年代別に，親の役割に違いがみられるのであろうか。有意差の見られた項目のみまとめたものを表３に示す。

家族構成別では，「家族の中心は」「きびしく叱るのは」の２項目で有意差がみられた。つまり，拡大家族においては家族の中心になる人が両親のどちらでもない人や母親の割合が核家族より有意に高いこと。また，厳しく叱る役割を拡大家族では父親が，核家族では両親が果たしている割合が有意に高いことである。

母親の職業有無別では，「勉強見てくれるのは」「家事をするのは」の２項目に有意差がみられた。有職家庭では，両親のどちらでもない割合が有意に高い。

最後に，父親の年代によって役割に差がみられるか調べた。「悩みの相談に乗ってくれるのは」の項目において30代の父親を持つ子どもは両親双方としているのに対し，40代以降の父親を持つ子どもは両親のどちらでもないとしている点で明らかな差異がみられた以外は違いはみられなかった。

以上から，家庭生活においては，ほとんどの役割は母親が担っている。拡大家族では祖父母が補助している面も見られるが，妻が就業していようといまいと，夫の協力は大変少ない。妻の職種によって夫の家事参加度が異なるという研究もあるが[7]，また，父親は子どもが乳児期にはおふろにいれる，おむつをかえる，ミルクを飲ますなどの手伝いをしているが[8]，子どもが成長し，父親自身も働き盛りとなると家事は全て妻（母親）の負担になるようである。そして，このことに子ども達はたいして疑問を持っていない。家事や看護を母親がして当然と捉えている。

これだけの結果から断定することは危険ではあるが，妻（母親）が就労している―つまり，共働き家庭が当り

表１　対象者の概要

人数（％）

男子	女子	家族構成			父親の年齢			母親の年齢			母親の職業の有無	
		核	母子	拡大	30代	40代	50代	30代	40代	50代	あり	なし
152	150	186(62)	16(5)	99(33)	63(21)	153(51)	7(2)	135(45)	107(35)	3(0.3)	184(61)	111(37)

表2　子どもからみた両親の役割

人数（%）

項目		父親	母親	両方	どちらでもない
一緒に遊ぶ（スポーツをする）のは	全体	107 (35)	26 (9)	57 (19)	105 (35)
	男子	62 (43)	11 (8)	24 (17)	48 (33)
	女子	44 (30)	15 (10)	32 (22)	55 (38)
勉強を見てくれるのは	全体	24 (10)	146 (48)	72 (24)	57 (19)
	男子	14 (10)	71 (48)	34 (23)	28 (19)
	女子	10 (7)	73 (49)	37 (25)	28 (19)
なぐさめてくれるのは	全体	29 (10)	119 (39)	68 (23)	84 (28)
	男子	13 (9)	58 (39)	26 (17)	52 (35)
	女子	16 (11)	61 (42)	42 (29)	28 (19)
厳しく叱るのは	全体	75 (25)	110 (36)	80 (27)	32 (11)
	男子	37 (25)	47 (32)	47 (32)	16 (11)
	女子	38 (26)	60 (41)	32 (22)	16 (11)
食事や衣服の世話をしてくれるのは	全体	3 (1)	267 (88)	18 (6)	11 (4)
	男子	2 (1)	129 (87)	12 (8)	5 (3)
	女子	1 (1)	135 (92)	5 (3)	6 (4)
家族の中心は	全体	205 (68)	46 (15)	33 (11)	15 (5)
	男子	107 (72)	18 (12)	19 (13)	5 (3)
	女子	96 (66)	26 (18)	14 (10)	10 (7)
頼りになるのは	全体	56 (19)	86 (29)	132 (44)	23 (8)
	男子	33 (22)	34 (23)	68 (46)	12 (8)
	女子	22 (15)	50 (34)	63 (43)	11 (8)
悩みの相談にのってくれるのは	全体	17 (6)	123 (41)	65 (22)	93 (31)
	男子	13 (9)	53 (36)	37 (25)	44 (30)
	女子	3 (2)	70 (52)	27 (18)	47 (32)
しつけに厳しいのは	全体	55 (18)	152 (50)	49 (16)	44 (15)
	男子	34 (23)	72 (48)	22 (15)	21 (14)
	女子	21 (14)	77 (52)	27 (18)	22 (15)
私に口うるさく言うのは	全体	40 (13)	139 (46)	36 (12)	85 (28)
	男子	24 (16)	58 (39)	18 (12)	49 (33)
	女子	16 (11)	77 (52)	18 (12)	36 (25)
道徳的なことを教えてくれるのは	全体	59 (20)	94 (31)	80 (27)	63 (21)
	男子	33 (22)	41 (28)	44 (30)	29 (20)
	女子	26 (18)	52 (36)	36 (25)	31 (21)
帰宅時間を注意するのは	全体	19 (6)	125 (41)	47 (16)	108 (36)
	男子	11 (7)	56 (38)	28 (19)	54 (36)
	女子	7 (5)	68 (47)	19 (13)	52 (36)
そうじや家の仕事をするのは	全体	3 (1)	252 (83)	30 (10)	14 (5)
	男子	0	127 (86)	15 (10)	5 (3)
	女子	3 (2)	123 (83)	14 (10)	8 (5)
病気の時看病してくれるのは	全体	3 (1)	215 (71)	61 (20)	19 (6)
	男子	2 (1)	107 (73)	30 (20)	8 (5)
	女子	1 (1)	106 (72)	30 (20)	10 (7)

表3　家族構成別・母親の職業有無別・父親の年代別にみた両親の役割

人数（%）

項目		父親	母親	両方	どちらでもない	備考 df＝3
家族の中心は	核家族	141 (76)	15 (8)	26 (14)	3 (2)	χ^2=14.10
	拡大家族	64 (69)	13 (14)	7 (8)	9 (10)	P<0.03
厳しく叱るのは	核家族	43 (23)	57 (31)	63 (34)	22 (12)	χ^2=8.436
	拡大家族	31 (34)	33 (37)	17 (19)	9 (10)	P<0.03
勉強を見てくれるのは	有職	11 (6)	83 (45)	46 (25)	43 (24)	χ^2=9.269
	無職	12 (11)	60 (55)	25 (23)	12 (11)	P<0.02
掃除や家の仕事をするのは	有職	3 (2)	146 (81)	20 (11)	12 (7)	χ^2=10.35
	無職	0	101 (91)	10 (9)	0	P<0.01
悩みの相談に乗ってくれるのは	～39	5 (8)	25 (41)	21 (34)	10 (16)	χ^2=7.823
	40～	6 (4)	68 (43)	35 (22)	49 (31)	P<0.04

表4　両親のイメージ（全体）

人数（%）

イメージ項目	父親		母親		χ^2検定
	はい	いいえ	はい	いいえ	
仕事熱心	256(85)	19(6)	250(83)	42(14)	
強い	241(80)	34(11)	157(52)	137(45)	P<0.001
やさしい	238(79)	42(14)	255(84)	45(15)	
明るい	238(79)	40(13)	269(89)	29(10)	
がんばりや	233(77)	44(15)	248(82)	49(16)	
頼りになる	229(76)	46(15)	258(85)	38(13)	
責任感強い	211(70)	60(20)	242(80)	50(17)	
尊敬できる	207(69)	64(21)	226(75)	29(10)	
頭がいい	207(69)	68(23)	201(67)	95(32)	
子ども好き	205(68)	63(21)	248(82)	43(14)	
話しやすい	194(64)	83(28)	264(87)	35(12)	P<0.001
あったかい	193(64)	77(26)	230(76)	63(21)	
思いやりがある	183(61)	93(31)	251(83)	48(16)	P<0.001
家庭的な	174(58)	100(33)	267(88)	29(10)	P<0.001
子どもに理解がある	173(57)	97(32)	216(72)	76(25)	P<0.02
おおらか	143(47)	129(43)	171(57)	121(40)	
きびしい	125(41)	155(51)	170(56)	128(42)	
教育熱心	118(39)	156(52)	205(68)	92(31)	P<0.001
おこりっぽい	98(32)	182(60)	139(46)	161(53)	
口うるさい	82(27)	197(65)	154(51)	147(49)	P<0.001
自分かって	71(24)	209(69)	31(10)	268(89)	P<0.001
がんこ	70(23)	207(69)	59(20)	240(80)	
いばっている	52(17)	228(76)	29(10)	272(90)	
だらしない	46(16)	230(76)	19(6)	278(92)	P<0.001

前になり，男女平等意識も高まり，家事・育児の男女共同化が進んでも，父親の役割と母親の役割が，曖昧模糊となっていくのではなく，従前のようにはっきりとしているということではなかろうか。

3）両親のイメージ

それでは両親に対してどのようなイメージを持っているのであろうか。従来，イメージをみるのに形容詞が用いられている。そこで，ここでも24の形容詞を用いてみていくことにする。父親母親それぞれについて，24の形容詞が当てはまるか否かを問うた。結果は表4である。父親について当てはまると答えた割合の高い順に並べた。

8割以上の子どもが父親に当てはまるとしたのは，「仕事熱心」「強い」の2語であるのに対し，母親には，「仕事熱心」「やさしい」「明るい」「がんばりや」「頼りになる」「責任感強い」「子ども好き」「話しやすい」「思いやりがある」「家庭的な」の10語にものぼっている。また，父親と母親で明らかな違いがみられるのは，「強い」「話しやすい」「思いやりがある」「家庭的な」「子どもに理解がある」「教育熱心」「口うるさい」「自分勝手」「だらしない」の9語である。つまり，父親は母親より自分勝手でだらしない面があるが，強い。母親は，父親より口うるさいが話しやすく，思いやりがあり，子どもに理解があり家庭的であると捉え

表5　イメージ「きびしい」と性別

人数（%）

	父親　きびしい		
	は　い	いいえ	
男　子	72（51）	70（49）	$\chi^2=4.371$
			P＜0.05
女　子	52（38）	84（62）	d f ＝1

表6　イメージ「教育熱心」と母親の職業の有無

人数（%）

	母親　教育熱心		
	は　い	いいえ	
有　職	116（64）	65（36）	$\chi^2=4.594$
			P＜0.05
無　職	83（76）	26（24）	d f ＝1

ていると言える。

男女児間では「きびしい」というイメージで，父親への評価に有意な違いがみられ，母親職業有無別間では，「教育熱心」で母親への評価に有意差が見られる（表5，表6）。つまり，男子は女子より父親を厳しいとみており，母親無職の子どもは有職の子どもより母親を教育熱心とみている。

今回得られた父親・母親のイメージは，1987年の総務庁調査[9]や1989年坪倉の調査結果[10]とほぼ一致している。

つまり，父親は明るくやさしく仕事熱心でがんばりやである。だから，頼りがいがあり，強い。母親も，明るくやさしく思いやりがあって仕事熱心であるが，また教育熱心で口うるさい。というイメージで捉えられている。「明るくやさしく仕事熱心」というところが，父親母親双方に共通するところであり，男子から父親は厳しいと評価されても，「こわい」存在の父親はいなくなったことが伺える。

4）役割とイメージの関係

子どもにあるいは家庭で果たしている親の役割と子どもが抱くイメージとの間に関係は存在するのであろうか。

役割で「両方」と答えた者を父親・母親双方に振り分けて，イメージとの関係をみたところ，父親においていくつかの関係が見られた。結果は表7から表11である。

勉強を見てくれるあるいは慰めてくれるのが父親であるとした子どもは，母親だとした子どもの父親より有意に父親を思いやりがあり，頭がよく，家庭的だとみている。頼りになる父親も母親を頼りにしている子どもの父親より頼りになり，尊敬されている。

厳しく叱る，口うるさく言う父親は，この役割を母親

表7　イメージと役割との関係（1）
父親のイメージと「勉強を見る」

人数（%）

イメージ ＼ 役割		勉強を見てくれるのは 父親	母親	
父親 思いやりがある	は　い	75(81)	133(67)	$\chi^2=6.168$
				P＜0.02
	いいえ	18(19)	67(34)	d f ＝1
父親 頭がいい	は　い	80(85)	149(75)	$\chi^2=3.915$
				P＜0.05
	いいえ	14(15)	50(25)	d f ＝1
父親 家庭的な	は　い	72(77)	125(63)	$\chi^2=6.159$
				P＜0.02
	いいえ	21(23)	74(37)	d f ＝1

表8　イメージと役割との関係（2）
父親のイメージと「なぐさめてくれる」

人数（%）

イメージ ＼ 役割		なぐさめてくれる 父親	母親	
父親 思いやりがある	は　い	81(86)	118(69)	$\chi^2=9.953$
				P＜0.005
	いいえ	13(14)	54(31)	d f ＝1
父親 話しやすい	は　い	79(84)	123(72)	$\chi^2=4.911$
				P＜0.05
	いいえ	15(16)	48(28)	d f ＝1
父親 家庭的な	は　い	76(82)	116(69)	$\chi^2=4.943$
				P＜0.05
	いいえ	17(18)	52(31)	d f ＝1

表9　イメージと役割との関係（3）
父親のイメージと「厳しく叱る」

人数（%）

イメージ ＼ 役割		きびしくしかる 父親	母親	
父親 きびしい	は　い	103(67)	65(39)	$\chi^2=25.37$
				P＜0.001
	いいえ	52(34)	104(62)	d f ＝1
父親 口うるさい	は　い	64(42)	40(24)	$\chi^2=11.81$
				P＜0.001
	いいえ	90(58)	129(76)	d f ＝1
父親 自分勝手	は　い	50(32)	37(22)	$\chi^2=4.421$
				P＜0.05
	いいえ	105(68)	132(78)	d f ＝1
父親 話しやすい	は　い	96(62)	123(73)	$\chi^2=4.369$
				P＜0.05
	いいえ	58(38)	45(27)	d f ＝1

表10　イメージと役割との関係（4）
父親のイメージと「頼りになる」

人数（%）

イメージ＼役割		頼りになる 父親	頼りになる 母親	
父親 頼りになる	は い	178(96)	170(84)	$\chi^2=15.49$ P<0.001
	いいえ	7(4)	32(16)	d f = 1
父親 尊敬できる	は い	164(89)	157(79)	$\chi^2=7.142$ P<0.01
	いいえ	21(11)	43(21)	d f = 1

表11　イメージと役割との関係（5）
父親のイメージと「口うるさく言う」

人数（%）

イメージ＼役割		私に口うるさく言う 父親	私に口うるさく言う 母親	
父親 きびしい	は い	60(79)	72(45)	$\chi^2=23.67$ P<0.001
	いいえ	16(21)	87(55)	d f = 1
父親 口うるさい	は い	54(72)	48(30)	$\chi^2=36.23$ P<0.001
	いいえ	21(28)	111(70)	d f = 1
父親 思いやりがある	は い	36(47)	107(68)	$\chi^2=9.331$ P<0.005
	いいえ	40(53)	50(32)	d f = 1
父親 自分勝手	は い	30(40)	40(25)	$\chi^2=5.039$ P<0.05
	いいえ	46(61)	119(75)	d f = 1
父親 子供に理解がある	は い	34(47)	95(62)	$\chi^2=4.857$ P<0.05
	いいえ	39(53)	58(38)	d f = 1
父親 家庭的な	は い	34(47)	101(65)	$\chi^2=7.819$ P<0.01
	いいえ	39(53)	55(35)	d f = 1

が担っている子どもの父親より，厳しい，口うるさい，自分勝手，話しにくいあるいは子どもに理解がなく家庭的でないという。

母親の場合は，厳しく叱る，口うるさく言う，頼りになるの3つの役割において，それぞれきびしい，口うるさい，頼りになるのイメージと関連がみられた(表略)。

子どもからみて，好意的な役割を担っている親に対しては，好意的なイメージを抱き，逆に，非好意的というか子どもに歓迎されない役割を担う親に対してはそのようなイメージを持つといえよう。

このことが，母親より父親により関連が見られたということは，父親の家庭内で果たしている役割が限られていることと，その参加の度合が関係するのではないかと推察される。つまり，母親の場合，多くの役割を担っていることから，その役割を担っているとかいないとかでイメージが形成されるのではなく，全体的に形成されるのではなかろうか。

父親には，24項目中15項目を50%以上の子どもが肯定しているが，母親には，20項目肯定し，80%以上の子どもに肯定される項目が10個も存在することからしてもうなずけるのではなかろうか。

4. ま と め

就労する母親が増加し，男女平等意識や家事・育児に対する男性の意識の変化につれて，父親役割と母親役割がお互いに接近してきているというかその時や場にあわせて行動しているのではないか，つまり「心理学的両性性」をとっていると言われている。

しかし，一方，子ども達の問題行動は増え続けている。これは，父親が父親らしい行動をとらなくなったからであるという。

男女平等社会において，子どもが心身ともに健康に成長するために，家庭における父親・母親の役割はどうあればよいのであろうか。最低限果たさねばならない役割とはどのようなことであろうか。

こうした課題を追求していくために，まず，実際に子ども達が親たちをどの様な役割を果たす人と捉えているかについて小学校5，6年生を対象に調査を実施した。結果は次の通りである。

1）家事・看護は母親の仕事，父親は家族の中心と明確に捉えている。
2）男子より女子の方が全ての役割において母親をあげる率が高い。
3）拡大家族では，核家族より家族の中心になる人が両親以外の人や母親の割合が有意に高い。また，核家族では厳しく叱るのは両親に対し，拡大家族では父親である。
4）母親有職家庭では，無職家庭より勉強を見る・家事をするのは，両親以外の人の割合が有意に高い。
5）父親の年代では，40代以上の父親の家庭では，40代より若い父親の家庭より悩みの相談を両親以外の人にしている。
6）父親のイメージは，強い，仕事熱心である。母親のイメージは，やさしい，明るい，がんばりや，

頼りになる，子ども好き，仕事熱心などである。

7）男子は女子より，父親を厳しいとみている。

8）無職の母親は，有職の母親より教育熱心である。

9）勉強を見てくれたり，なぐさめてくれる父親は，思いやりがあり，家庭的であるという風に，父親においていくつかの役割とイメージの間に相関がみられた。

以上である。

T.パーソンズの伝統的な性別役割観に根ざす父親＝道具的役割，母親＝表出的役割理論に対して，女性の反発は大きい。その家庭において，どちらがより道具的役割を果たすのに適しているかによって役割を遂行すればよいのであって，父親でなければとか母親でなければということはないという意識である。しかし，意識とは裏腹に現実は，性別役割分担が家庭の中心にしっかり残っており，加えて，父親の役割が母親に委譲しているという風にも見える。そしてそのことが家族に抵抗なく受け入れられているようである。

救いは父親が家族の中心的存在として認識されていることであろうか。

こうして見てくると，父親と母親の役割がお互いに近づいて曖昧模糊としてきているのではなく，従来の性別役割以上に，母親の役割が多くなっていることが明らかである。これでは母親達が過労死しかねないし，ストレスは解消されないであろう。

最近，不登校を引き起こしている子どもの父親達に変化がみられる。それは，母親まかせであった学校や治療者への対応に出かけるようになったこと。当の子どもとの関わりに積極的であることである。特に，治療機関に自ら出かけ，対策に率先して動こうとする姿勢がみられる。勿論，全ての父親がそうだとは言わない。しかし，こうした父親が出現してきていることは，父親として果たすべき役割の模索に光を投げかけてくれるのではなかろうか。

父親調査は母親の調査になり，なかなか父親本人からの声は聞かれないというが，父親達がいまどの様に考え家庭の中に自分の位置や役割を築こうとしているのか生の声を集約したいものである。

また，子ども達が健全な発達を遂げるためには，父親・母親の子どもの発達時期々に見合った役割が発揮される必要があろう。最低限必要なことは何か今後追究したい。

本報告は，日本家政学会第44回大会に置いて口頭発表したものをまとめなおしたものである。

最後に，調査に協力いただきました松江市立津田小学校の教職員並びに児童の皆さんにお礼申し上げます。

参考文献

1）労働省婦人局編：婦人労働の実状　平成2年版　P.1

2）日本婦人団体連合会編：婦人白書　1989　ほるぷ出版　P.161

3）総理府広報室編：月刊〝世論調査〟9月号　P.9　1987

4）室光井顕雅也編：現代日本の婦人労働　法律文化社　P.260　1987

5）F. A.ペダーセン編：父子関係の心理学　金子書房　P.17　1986

6）国谷誠朗編：講座家族心理学3　親と子―その発達と病理　金子書房　P.87－90　1988

7）高橋久美子：都市共働き家族における役割調整の職業差　お茶の水女子大学人文学部紀要　P.170　1978

8）戸屋律子：子育て期の妻の生活に関する研究　平成3年度卒業研究　P.33－35

9）総務庁青少年対策本部編：日本の父親と子ども　P.48　1987

10）坪倉純子：現代の父親像に関する一考察　平成元年度卒業研究　P.1－2